

貴重な地質・地形を保護し、自然公園として教育や観光に活用する「日本ジオパーク」に、平成25(2013)年9月三陸ジオパークが認定されました。三陸ジオパークは青森県八戸市から宮城県気仙沼市までの約300kmにわたり、国内で最大のジオパークとなります。リアス海岸特有の自然景観をはじめ、5億年前から現在に至る連続的な地層、繰り返されてきた津波災害の遺産など、全体で130カ所、市内には17カ所のジオポイント(見どころ)が設けられました。

宮古のジオポイント

ぼうちようてい

田老の防潮堤

明治三陸大津波と昭和三陸大津波により壊滅的な被害を受けた田老地区(旧田老町)。街全体を囲む防潮堤は総延長2,433メートル、高さ10メートル。長大な防潮堤は「万里の長城」と呼ばれてきました。



たろう観光ホテル

東日本大震災により6階建の建物の4階まで浸水。1・2階は壁などが破壊され、鉄骨のみとなりました。津波の破壊力をまざまざと感じとることができ、震災の記憶を後世に伝えます。震災遺構第1号になっています。



津波到達点

明治29(1896)年の明治三陸大津波の最大波と昭和8(1933)年の昭和三陸大津波の最大波高を示すプレートが設置されています。



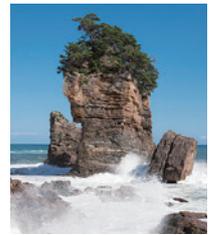
津波記念碑

田老第一小学校の裏に昭和8(1933)年の津波記念碑が建てられており、津波に備える文面が刻まれています。



三王岩

高さ50メートルの男岩を中心に、左側が女岩、右側が太鼓岩の3つの岩からなっており、1億年前頃(白亜紀)の海に堆積してできた砂岩や礫岩(宮古層群)から構成されています。



震災メモリアルパーク中の浜

東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けた中の浜キャンプ場のトイレと炊事棟を、「震災遺構」として保存しています。谷の奥に行くに従い波高が急に上がったことが体感できます。



崎山貝塚

姉ヶ崎から続く台地上に位置する縄文時代前期の貝塚で、縄文人の生活環境や三陸の海との関わりをうかがえます。平成8(1996)年7月に国指定史跡に指定されました。



日出島

地層は三王岩と同じ宮古層群の一つです。アンモナイトなど海に住む生物の化石がたくさん見つかります。昭和10年12月に日出島クロコシジロウミツバメの繁殖地として国の天然記念物に指定されています。



潮吹穴

宮古層群に波の侵食でできた穴が空いています。大きな波が打ち寄せると、穴に入り込んだ海水が吹き出し、海が荒れたときには高さ30メートルにも達します。昭和14(1939)年9月に国の天然記念物に指定されています。



浄土ヶ浜

浄土ヶ浜に見られる白い岩肌は、5,200万年前(古第三紀)に、マグマが浅いところで冷えて固まった流紋岩という火山岩で、二酸化ケイ素を多く含むという特徴をもっています。



ローソク岩

浄土ヶ浜の北、大沢海岸の北部に突き出た巨大な岩がローソク岩です。周囲にある灰色の宮古層群を突き破ったマグマが固まったものです。昭和14(1939)年9月に国の天然記念物に指定されています。



とどがさき

鮫ヶ崎

おちえほんとう

重茂半島にある鮫ヶ崎は、本州で最も東に位置しています（東経142度4分21秒・北緯39度32分48秒）。灯台が立つ平らな地面はかつての海底で、数十万年かけて隆起してきたものです。



じゅうにしんざん

十二神山

重茂半島中心部の十二神山東麓にある樹齢150～300年の天然広葉樹林で、多くの植物や動物のすみかとなっています。十二神山の「ブナ-スダケ群落」は太平洋沿岸型の冷温帯を代表する原生的な森林で、わが国でも希少なものです。



くろもりじんじゃ くろもりかくら

黒森神社・黒森神楽

黒森山は古代から地域信仰の拠点で、源義経主従が立ち寄ったという伝説もあります。黒森神楽は、平成18(2006)年3月に国の重要無形民俗文化財に指定されています。



はやちねさん

早池峰山

北上山地の最高峰です(標高1,917m)。この蛇紋岩は約4億7千万年前頃に赤道付近で固まったマグマです。国指定特別天然記念物のハヤチネウスユキソウなどの固有種や、カトウハコベを代表とする「蛇紋岩植物」が自生しています。



はらたい こんざいがん

腹帯の混在岩

1億5千万年以上前の、はるか遠洋の深海底でできた岩石が観察できます。この岩石はプレートの動きに伴い運ばれてきました。



やくしがわけいりゅう こせいがい

薬師川溪流の古生界

薬師川は、小国川との合流点から上流10kmほど続く溪流です。この大地が赤道付近にあった、約4億7千万年前頃にできた地層を連続的に観察できます。この地層が露出する林道沿いには「鉄胎の岩屋」があり、室町時代から早池峰山が信仰の対象であったことがわかります。



三陸復興国立公園

昭和30(1955)年5月、陸中海岸国立公園は、海岸に崖が連なる国内最大の地形規模を有する自然公園として指定されました。東日本大震災後、平成25(2013)年5月に青森県の種差海岸階上岳自然公園を、平成27(2015)年3月には宮城県の南三陸金華山国定公園を新たに編入し、「三陸復興国立公園」となりました。震災の体験と歴史を通じ、「自然の恵みと脅威を学び、人と自然との共生を考える」という、新たな取り組みが進められています。

みちのく潮風トレイル

平成27(2015)年7月、岩泉町南部～宮古市中部区間にかけて、みちのく潮風トレイルのコースが開通しました。トレイルとは、森林や原野、里山などにある「歩のための道」を指す言葉です。歩くスピードで旅することで、車の旅では見えない風景、歴史、地域のくらしなどを体験する機会を提供するものです。

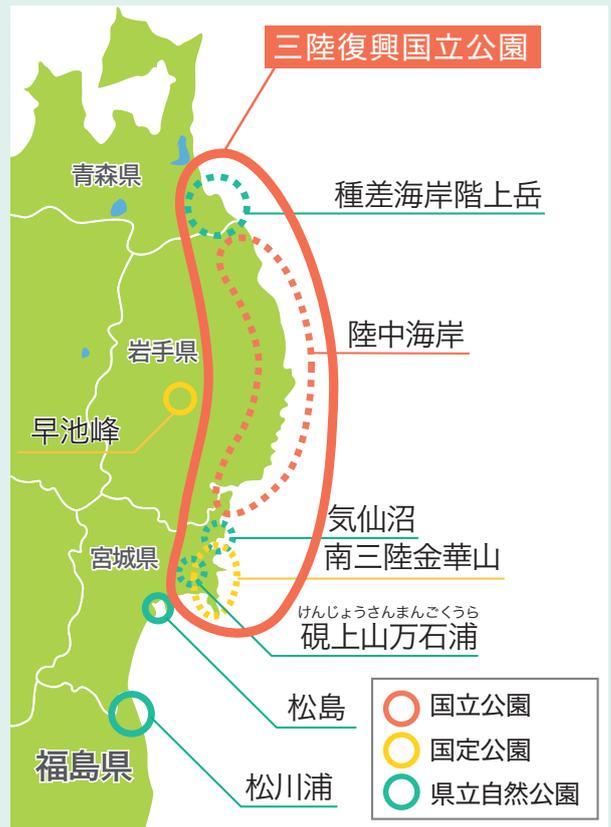
宮古地区ではジオサイトをはじめ、震災遺構など自然の恵みと脅威に触れることができるコース設定となっています。

■詳しい情報・ルートについては、環境省 みちのく潮風トレイル公式サイト (<http://www.tohoku-trail.go.jp/>)へ

■情報窓口 浄土ヶ浜ビジターセンター (☎0193-65-1690)



みちのく
潮風トレイル
Michino-ku Coastal Trail



(破線は指定編入以前の位置)